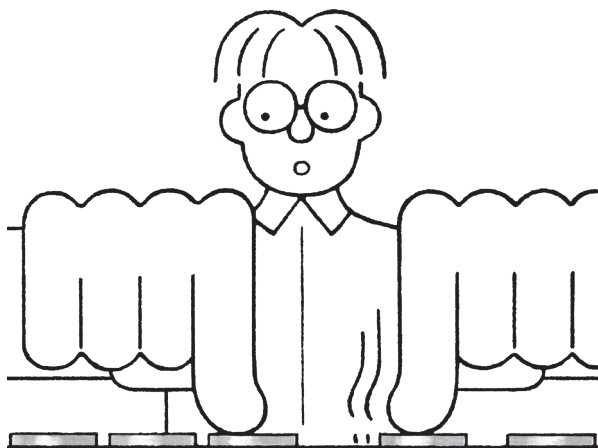


机の上の小さな変革



塊と間隔

今回は、私たちが無意識に行ってしまう視覚的な現象について、手を動かしながら実感してもらいたと思います。まずは1円硬貨を5枚用意してください。同じ種類であることが重要なので、種類と数は厳守してください。準備ができたら、以下の指示に従いながら、読み進めてください。



まずは5枚の1円硬貨を、A4サイズくらいのスペースを開けた状態の机の上に、横一列に15mm間隔で並べてみましょう。その都度定規で測るのが面倒な人は、5mmのマス目の方眼ノートなどを用意すると、とてもスムーズです。できましたか？ この状態だと、5枚並んだ硬貨は1つの塊として見えると思います。

今度は、左から2番目の1円硬貨を左に10mm、右から2番目の1円硬貨を右に10mm動かしてみてください。いかがですか？ こうすると、先ほどまで1つの塊に見えていた5枚の硬貨が、左から、2枚、1枚、2枚の3つのグループに分かれて見えるのではないかと思います。

ではさらに、真ん中の1円硬貨を左に20mm動かしてみてください。こうすると、左から3枚、2枚の2つのグループに分かれると思います。私たちはわずかな距離の違いで、近いものを1つの塊として捉え、距離の離れ

たものは別の群として見てしまう能力を持っています。

さらに、右から2番目の1円硬貨を5mmだけ左に動かしてみてください。動かしたら、もう1度、同じ1円硬貨を左に5mm動かしてみましょう。先ほどまでの2枚による塊が、だんだんと弱まっていき、1枚ずつに分かれていくように感じませんか？すでに左の3枚の塊が5mm間隔で並んでいることから、5mmを超える間隔になると、別の塊として認識されやすくなってしまっているのではないかと思います。さらにもう10mm、先ほど動かした1円硬貨を左に動かして間隔を広げると、1番右の1円硬貨と、左の3枚の塊とも等間隔に離れることになるので、左から3枚、1枚、1枚と3つの塊が目に見えるように見えてきます。

複雑な情報を単純化する「群化」

今回みなさんに試していただいたような群化（グルーピング）の力は、距離が近いものだけでなく形や色が近いものを塊として見ることもあり、いずれも自分の意思とは関係なく瞬間的に無意識に働きます。このことは、私たちが知らず知らずのうちに複雑な情報を単純化することで、高速に全体像を把握できてしまうことにもつながります。またその一方で、無意識の群化が働いてしまうことによって、単純な視点から逃れられなくなってしまいう可能性もあるのです。



PROFILE 菅 俊一 (SYUNICHI SUGE)

コグニティブ・デザイナー。表現研究者。映像作家。多摩美術大学美術学部統合デザイン学科准教授。1980年東京都生まれ。人間の知覚能力に基づく新しい表現を研究・開発し、様々なメディアを用いて社会に提案している。主な仕事・著書に、NHK Eテレ『2355/0655』、『観察の練習』『ヘンテコノミクス』など。